



島前発の教育魅力化は社会変革における“オセロの角”つまり日本の教育システムをガラリと塗り替える可能性を秘めた一手だ、と看破した水谷さん(↑)

スカイプ中継で講演を行った
鈴木大臣補佐官



本土から来島した教員の方も交えて活発に議論



(↑)ブータンからの参加者も
(←)島前高校に通う島留学生
らも積極的に発言

続いては、前リクルートキャリア代表取締役社長の水谷智之さんが登場。経営と人材育成、そして採用のプロの目からみて、「人生を切り拓いていけるのは、強い意志や欲求をもち激しく行動する人。都会への人材流出を防ぎ、意志ある人材を地域で育てるには、魅力的な中学・高校が地域にあることが大切」と指摘しました。

**ソーシャルイノベーションフォーラム
最優秀賞！**

今回の島会議に先立ち、9月30日(金)、ビッグニュースが届き海士町の教育関係者を震撼させました。「日本財団ソーシャルイノベーションフォーラム2016」において、『教育魅力化による地方創生プロジェクト』を提案した岩本悠さんが最優秀賞に選ばれたのです。岩本さんは、現在は島根県教育委員会に所属し「教育魅力化特命官」として活動していますが、昨年度まで10年近く海士町で島前高校の魅力化に携わり、島留学の制度化や独自のカリキュラム開発などで生徒数のV字回復を実現させるなど、『高校改革と地域づくりの連動』で成果をあげた立役者の一人です。

海士モデルを広める突破口

岩本さんは島の教育会議にも参加し、イノベーションフォーラムでの提案内容について概要を説明しました。その骨子は左の通りです。

■海士町で高校魅力化が成功した要因とは？

- 学校と行政と住民をつなぐチームが結成されたこと
- チームが学校を開き、地域資源(人、もの、金、智恵など)を学校に接続したこと
- 生徒が地域に出て大人と共に学び、その変化が住民や親、教員にも連鎖したこと

■海士町のモデルを広めていくための施策のポイントは？

- ① ノウハウを共有し学び合うための、全国の地域を繋ぐ『学習するネットワーク』をつくる
- ② 個人に依存しない、組織を超越したチームをつくる
- ③ 学校魅力化で地域がどう変わったか、子どもがどう変わったかが分かる新しい価値基準を作り、評価を『見える化』する

今回の最優秀賞受賞で得られた支援(事業資金3億円)は、これら3つの実現のために投入されます。

「島の教育会議」で語る

教育魅力化による地方創生

～‘震源地’海士より、学びと地域の好循環へ～



10月22日(土)、島民ホールにおいて、第12回島会議「島の教育会議」が開催されました。今回は「2030年の地域における教育の魅力化とは何か」をテーマとして、教育関係者を中心に島内外から約80名が参加。隠岐島前高校の魅力化と地域づくりを連動させ一定の成果を上げてきた海士町のこれまでの取り組みを確認しつつ、それを踏まえて今後どのような挑戦を続けていくか、海士町のみならず日本の、世界の教育の未来を見据えた壮大なビジョンが示されました。

冒頭、文部科学大臣補佐官の鈴木寛さんが講演(※インターネット中継)を行い、訪れつつある『激動の時代』を乗り切っていくためにはどのような能力を育てなければいけないか、今後必要となる人材とそのため教育について、具体的な提案がありました。

情報化とグローバル化、コンピュータの性能の進化が急激に進む現代、「2045年問題」という言葉がある

人工知能やロボットに代替される

可能性が高い職業の例

一般事務員、受付係
医療事務員、駅務員
学校事務員、行政事務員
給食調理人、銀行窓口係
金属加工・金属製品検査工
警備員、経理事務員
建設作業員、新聞配達員
スーパー店員、測量士
電気通信技術者、レジ係
保険事務員 等々

可能性が低い職業の例

アートディレクター、アナウンサー
アロマセラピスト、犬訓練士
医療ソーシャルワーカー、教員
映画監督、学芸員、児童厚生員
観光バスガイド、外科医
ゲームクリエイター、作曲家
コピーライター、雑誌編集者
社会教育主事、柔道整復師
助産師、人類学者、記者
スタイリスト、ソムリエ
スポーツインストラクター
ツアーコンダクター、俳優
バーテンダー、デザイナー
ペンション経営者、保育士
マンガ家、料理研究家 等々

(野村総合研究所)

ように、2045年にはついに人工知能(AI)が人間の脳を超えてしまうと予測されています。個別の職業を考えると、「必ずしも特別の知識・スキルが求められない職業や、秩序的・体系的操作が求められる職業」は人工知能に取って代わられる可能性が高く、「芸術、歴史学・考古学、哲学など抽象的な概念を整理・創出するための知識が要求される職業、他者との協調や、他者の理解、説得、ネゴシエーション、サービス志向性が求められる職業」は、たとえ高度な人工知能であっても人間の代替をすることは難しい傾向にある、との発表があります。(野村総合研究所)

そんな状況下でも生き抜いていく人材を育てるためには従来の教育ではたちゆかない、今こそ教育の中心を変えていく必要がある。島前高校や海士町が目指している方向はまさに、これからの世界に求められるものだと、鈴木大臣補佐官は熱い期待を語りました。